千葉労災病院　アレルギー・膠原病内科　各科選択研修プログラム

１ 研修プログラムの目的及び特徴

研修医は研修２年目の選択研修期間において、内科診療における専門的知識、技能、態度を習得し、診療をおこなう上での医療全般にわたる基礎的臨床能力を習得する。

研修医は内科の総合的研修を受けることができる。内科初期研修を更に発展させる研修であり、その中心は①消化器グループ研修、②腫瘍血液グループ研修、③糖尿病・内分泌グループ研修、④呼吸器グループ研修、⑤アレルギー膠原病グループ研修である。それぞれの研修期間は 4 週を基本単位とするが、研修医の希望で疾患グループかかわらず総合的内科研修を選択することもできる。

これは内科選択研修のうち、アレルギー膠原病グループの研修プログラムである。

２ 研修指導責任者

玉地　智宏（アレルギー・膠原病内科部長）

研修指導者

アレルギー・膠原病内科　４名

３ 期間割と研修医配置予定

４週を内科研修としてアレルギー膠原病グループに所属する。

４ 研修内容と到達目標

（１）基本的目標

免疫疾患（アレルギー，自己免疫，自己炎症）やリウマチ性疾患とその周辺領域の基礎的臨床能力を習得する。

患者・家族との信頼関係を構築しながら患者の問題点を把握し診断にあたる。多職種からなるチームのメンバーと協調して、患者や社会のニーズに応える医療を提供する。

チーム医療の実践と自己臨床能力向上に不可欠な、症例提示能力を高めるとともに、科学的な探究心を高め、病態の理解に努める姿勢を育む。

（２）具体的目標

内科初期研修で習得すべき項目である、①患者―医師関係、②チーム医療、③問題対応能力、④安全管理、

⑤医療面接、⑥症例呈示、⑦診療計画、⑧医療の社会性など各項目の習得状況を確認しながら、次に掲げるアレルギー膠原病領域の目標を習得する。

1. アレルギー領域の疾患と病態を理解し鑑別ができる。
　アナフィラキシー，仮性アレルゲン，PFAS/OAS，食物アレルギー，気管支喘息
2. アレルギー・膠原病内科領域の皮膚症状の診察と鑑別ができる。
　レイノー，ゴットロン，紫斑，紅斑，皮膚硬化，蕁麻疹
3. 筋骨系疾患(リウマチ性疾患)の症状の診察と鑑別ができる。
　関節炎，付着部炎，関節痛，偽痛風，変形性関節症，筋肉痛，関節エコー
4. 膠原病関連の血液検査が適切に選択し理解できる。
　ANA，ANCA，CCP，RF，補体，IgG/A/M
5. 関節リウマチに対する治療を理解する。
　MTX，csDMARDs，生物学的製剤，JAK 阻害薬
6. 膠原病領域(RA 以外)の疾患と病態を理解し鑑別ができる。
　血管炎，抗核抗体関連膠原病，IgG4 関連疾患，自己炎症疾患
7. 膠原病領域の臓器病変の病態と評価を理解する。
　肺，腎，神経，血管，消化器，血液，鼻耳，皮膚
8. グルココルチコイドの投与が適切にできる。
　ステロイドカバー，点滴と経口，分割投与，副作用管理
9. 免疫抑制薬について種類と適応を列挙できる。
　種類と適応，MTX，RTX，Tac，MMF，ivCY
10. 日和見感染に対する管理ができる。
　β DG、C7HRP、ST 合剤
11. フォーカス不明の発熱，炎症に対するアプローチを理解する。
12. 内科的な思考とカルテ記載を実施できる。
13. 文献検索を行ない，読んで説明する。

（３）経験すべき手技、検査、治療法等

基本的な内科における手技、検査、治療法に加え、関節および周辺の診察、関節超音波、関節穿刺、アレルギー皮膚試験を経験する

（４）経験すべき症状、疾患、病態

前述（２）を参照

（５）週間スケジュール

平日　8:30-9:00 朝カンファレンス、16:30-17:00 タカンファレンス

病棟業務に加えて、外来の新患問診、予約外来の研修を適宜行う

火曜　17:00-18:00 内科カンファレンス、木曜 13:30-16:00 関節超音波

木曜 17:00-18:00 抄読会

５ 評価

研修医は PG-EPOC に自己の研修内容を記録、評価し、症例レポートや入院サマ

リーを作成する。指導医はローテーションごとに研修の全期間を通じて研修医の観察・指導を行い、目標達成状況を研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲや症例レポートから把握し形成的評価を行う。なお、評価票はインターネット上のシステム PG-EPOC 等）を使用する。評価は自己、指導医、看護師等チーム医療スタッフ等によって行う。

初版：令和 4 年 1 月 24 日
改訂：令和 7 年 2 月 28 日
令和 7 年 7 月 1 日
令和 8 年 10 月 1 日